

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	すこやか親子・子育て支援事業	会計	一般会計	事業No.	237	施策順No.	21-007
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり	事業種別	政策・重点	予算科目	4-1-2-11-2		
施策	21 乳幼児教育の充実	事業期間	開始	17	終了		
					課等名	保健課	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	①乳幼児(0～3歳)とその保護者、②妊婦とその配偶者、③体験学習実施高校生					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度		23年度
		・各年の出生児数 人 ・妊婦と配偶者	6156	6066	6027	6000		6000
		体験学習実施校の対象生徒数 人		300	280	250		250
意図	①乳幼児が、その発達段階に応じて健全な育ちができる ②子育てについての不安が軽減できる ③次世代の親の育成							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	乳児訪問実施率 %	95.3	99.1	97.3	96	98.2	96	A
	高校生・中学生ふれあい体験学習参加校数	5	5	6	6	6	6	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	外国人や里帰り出産等の事情で訪問できない家庭以外は、ほぼ全世帯に訪問できている。また2か月児訪問で把握できないケースでも、4か月健診等で把握している。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	安心して子どもを生み健やかに育てるための育児支援や病気・発達の遅れ等の早期発見と必要な児には療育につなげる機会として訪問指導や健康相談等の実施、また親の子育て不安やストレスの解消、子どもの集団遊びの経験の場とする。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 出生0～2か月児の全員に対して保健師による家庭訪問指導の実施 民生児童委員による「おめでとう訪問」の実施 2 産後のうつ病について母親へのアンケート調査実施 3 乳幼児健康相談(7か月児、12か月児、2歳児)の実施 4 離乳食講座(前期、後期)の実施 5 発達支援の必要な親子に対して遊びの広場開設 2会場 6 乳幼児学級開催と育児サークルへの支援 7 高校生乳児ふれあい体験学習 8 妊婦とその配偶者を対象にパパママ教室の実施 1講座3回×5講座 9 初妊婦を対象にプレママ講座の実施	1 乳児訪問延べ数 2 産後うつアンケート調査実施数(2か月児母) 3 乳幼児健康相談実施回数・人数 4 離乳食講座実施回数・人数 5 あそびの広場実施回数・人数 6 乳幼児学級実施回数と参加延べ親子数 7 ふれあい体験学習参加校・生徒数 8 パパママ教室実施回数・受講者数 9 プレママ教室実施回数・受講者数	1 対象者932人中 915人訪問 2 866人 3 164回 2,649人 4 20回 359人 5 24回 242人 6 745回 9,560人 7 6校 191人 8 15回 172人 9 24回 188人
23年度実施計画	1 出生0～2か月児の全員に対して保健師による家庭訪問指導の実施 民生児童委員による「おめでとう訪問」の実施 2 産後のうつ病について母親へのアンケート調査実施 3 乳幼児健康相談(7か月児、12か月児、2歳児)の実施 4 離乳食講座(前期、後期)の実施 5 発達支援の必要な親子に対して遊びの広場開設 2会場 6 乳幼児学級開催と育児サークルへの支援 7 高校生乳児ふれあい体験学習 8 妊婦とその配偶者を対象にパパママ教室の実施 1講座3回×5講座 9 初妊婦を対象にプレママ講座の実施	1 乳児訪問延べ数 2 産後うつアンケート調査実施数(2か月児母) 3 乳幼児健康相談実施回数・人数 4 離乳食講座実施回数・人数 5 あそびの広場実施回数・人数 6 乳幼児学級実施回数と参加延べ親子数 7 ふれあい体験学習参加校・生徒数 8 パパママ教室実施回数・受講者数 9 プレママ教室実施回数・受講者数	

3 事業コスト

		(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(国)次世代育成支援対策交付金(母子保健)(1/2)1,550千円
事業費	特定財源	国庫支出金	2,227	1,550	2,808		
	一般財源	県支出金					
		起債					
		その他					
		計(A)	3,722	3,392	5,616		
		正規職員所要時間		5,160			
		臨時職員等所要時間					
		人件費計(B)		18,452			
		トータルコスト A+B		21,844			

4 事業に対する市民や議会の意見

議会では子育て支援の拡充を求める意見が多い。
乳幼児学級等への参加者が増加しており、同年齢の子どもの親の交流や仲間づくりの場として、また育児不安やストレスの解消、育児相談の場としての役割を果たしている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	乳幼児が発達段階に応じた健全な育ちができる。	施策の成果指標又はムトス指標	基本的な生活習慣が身についている子どもの割合(教育委員会生活アンケート) %
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	発達段階のキーポイントごとに相談の場を設けている。		
	後期に向けた課題	相談の内容・アンケート・資料等の見直し、検討を行っていく必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	遊びの広場の対象を平成20年度からキッズとベビーの2つに分けて、きめ細かい対応をしてきた。ふれあい体験の参加校が増加してきた。		
	後期に向けた課題	ひまわりの発達支援グループも増え、子育て支援課の発達支援学級も開始されるようになり、遊びの広場のキッズの見直しを、子育て支援課と検討していく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	パパママ教室とプレママ講座を一つにした。2歳児相談においては、対象人数に応じて相談回数を検討し実施した。		
	後期に向けた課題	2歳児相談は、引き続き回数の検討を行っていく。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	乳幼児学級やパパママ教室等の材料費等は、自己負担してもらっている。		
	後期に向けた課題	同様に実施予定		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①助産師外来、助産師相談、病院での母親学級等行政以外の相談や学級も利用されている。 ②病院や助産師等と連携し、紹介等行ってきた。		
	後期に向けた課題	医療機関で開催される母子保健に関する事業との連携や活用。		
全体を通じて	4年間の振り返り	2歳児相談には、心理士を設置し決め細かい相談を実施した。健診や相談のフォロー体制も、遊びの広場以外にもひまわりグループの増加や、子育て支援課の発達支援学級の開始等で充実してきた。		
	後期に向けた課題	より早期の段階のフォローを充実し、その後は他機関と連携して、一貫した支援を行っていく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
-----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--